

令和6年度 部局経営目標

年度	令和6年度	作成日	令和6年4月1日
部局名	教育委員会	部局長名	武村 良江
(1) 部局の役割・使命 (ミッション)			
<p>1. 一人ひとりの可能性を広げる【No.4：質の高い教育をみんなに】【No.10：人や国の不平等をなくそう】 共生社会実現のため、誰もが安心して教育を受けることができ、多様性を認め合い互いに支え合う社会を目指す。 その中で、自分の可能性を広げ、自分に合った生き方「真庭ライフスタイル」を実現する。</p>			
<p>2. 真庭を愛する「ひと」、心豊かな「ひと」をつくる【No.4：質の高い教育をみんなに】【No.11：住み続けられるまちづくりを】 地域ぐるみの関わり合いや見守りにより、子どもも大人も思いやりや地域のつながりを感じる心を育み、暮らしの中でそれを次世代に伝え、繋げる「ひと」となる。 豊かな自然とともにある真庭を愛し、誰もが誇りを持って地域を担う「ひと」となる。</p>			
<p>3. 教育を地域で支える仕組みをつくる【No.4：質の高い教育をみんなに】【No.17：パートナーシップで目標を達成しよう】 学校・家庭・地域が支え合いながら、それぞれの役割の中で教育を担う。 「まち」に教育を支える多様な環境が整い、地域が持続する。</p>			

(2) 部局の重点施策	
① 地域みんなで子育てを応援する「こどもはぐくみ応援プロジェクト」	
② 自分らしく暮らせる「共生の地域社会まにわ」の実現	<p>(1) 誰もが安心して学べる場、格差のない学びの場、切れ目のない学びの場をつくる。</p> <p>(2) 子どもたちの学びと居場所を支える「学びのセーフティーネット」を構築する。</p> <p>(3) 地域の人からの学びにより、思いやりや優しい心を育む取組を進め、地域ぐるみで子どもの心豊かな育ちを支援する。</p> <p>(4) 地域資源を活用した学びの仕組みをつくり、地域資源の新たな価値を創出する。</p> <p>(5) 成長の段階で地域貢献を考え、自己有用感を高め、地域で活躍できる人づくりを進める。</p>
③ 市民とともに作る持続可能な地域づくり	<p>(1) 社会に開かれた学校教育として、学校と地域が育てたい子ども像を共有しながら地域の教育力を高める。</p> <p>(2) 市民が学びつなげる場の整備やデジタル化・ネット環境整備、あわせて高校の魅力化を進める。</p>
④ 未来に向けた「回る経済」の推進と脱炭素への挑戦	<p>(1) 環境に優しく安全安心な学校生活の環境を整える。</p> <p>(2) 地元食材を使った食育と郷育を進める。</p>
(3) 事業成果目標	
<p>●人口減少抑制対策</p> <p>市内高校進学率の向上（教育魅力化推進事業） 【はぐくみ】（再掲） 高校は、真庭の未来を担う子どもたちのより良い成長はもちろん、活気があり持続可能な地域をつくる上でも大切な役割を果たしています。令和4年度「高校魅力化推進事業」として取組をスタートさせ、令和5年度からは「教育魅力化推進事業」の中に組み込み、義務教育や社会教育と合わせ一貫性を持って取り組んでいます。 令和6年度は以下に取り組みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校応援市民会議：校地毎の応援機運の更なる醸成を図るとともに、スクールポリシー等校地が掲げるビジョン実現のための応援体制の構築を目指します。具体的には「地域とともにある学校」への転換を図る仕組みであるコミュニティスクール化を強く後押しし、合わせてその連携先である地域学校協働本部に準じた、実効性のある応援体制の構築を目指します。 ・受入態勢整備：勝山高校蒜山校地の受入施設について令和7年度開設を目標に引き続き準備を進めます。 ・高校2校の管理職が顔を揃えての市教育委員会との定期的情報交換・意見交換の場を設け、引き続き課題解決策を模索します。 	<p>指標名及び目標値</p> <p>指標:①市内高校進学率、 ②各校地応援組織の設立、 ③2高連携事業の実施</p> <p>目標値:①70%、②3校地、③1事業</p> <p>(令和5年度実績値：①49.6%、②1校地、③0事業)</p>

<p>学校給食の地産地消の推進 【はぐくみ】（再掲）</p> <p>・学校給食を「郷育」の一環と位置づけ、児童生徒と農業者を繋げ、食材を通じた真庭の豊かさを知る機会を提供します。真庭市の食材のみを使用した「真庭食材の日」、通常の給食に真庭市の特産品を一品加える「真庭特産品プラスワンの日」を実施し、その評価により課題を検証し地産地消の推進に努めます。（5品目＝じゃがいも、玉ねぎ、大根、キャベツ、にんじん）</p> <p>また、学校給食の材料に真庭市産品を使うことで市内での回る経済の仕組みをつくりまします。そのため、給食における市内産品使用について全量調査を行いながら生産者や納入業者などと安定した価格設定について協議を行い、目標値達成に向けた食材調達確保に努めます。</p> <p>・給食材料に真庭市産を使うことと併せて、生産者による講話の機会を通じて児童生徒と地域をつなげながら食育と郷育を進めます。</p> <p>参考：「真庭食材の日」：3回／年。「真庭市特産品プラスワンの日」：7回／年。</p>	<p>指標：5品目の地産地消率</p>
	<p>目標値：34%</p>
	<p>(令和5年度実績値：34.3%)</p>
<p>1 教育振興基本計画の重点的施策の目標達成</p> <p>・真庭市の教育の目指すべき姿と、その実現のために実施すべき基本施策を示す「真庭市教育振興基本計画」の第3次計画を令和4年3月に策定しました。</p> <p>本計画では、第2次総合計画改訂版に沿って、「地域循環共生圏」、「SDGs」、「共生社会」、「学校と地域との連携」及び「高校の魅力化」の推進の観点から点検・検証し、必要に応じて見直しを図ります。</p>	<p>指標：重点施策の実施点検</p>
	<p>目標値：審議会点検1回/年</p>
	<p>(令和5年度実績値：1回)</p>
<p>1-③ ICT環境の整備（GIGAスクール構想の実現）</p> <p>・ICTを活用し、個別最適化された学び、創造的な学びの実現に向け、端末を活用した授業が日常化していくことを目標に、次の3つの姿を目指し、取組を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童生徒、教員が1日1回以上端末を活用して学習、指導している。 ・すべての教員が学習ツールの共有機能を活用した授業を実施している。 ・すべての学校で毎日端末の持ち帰りを実施している。 <p>・「端末利活用計画」を各校で作成し、児童生徒による端末活用を進めるとともに、活用事例の交流や効果的な活用の提供に努めます。</p>	<p>指標：学校情報化認定に取り組んだ学校数</p>
	<p>目標値：26校（全校）</p>
	<p>(令和5年度実績値：13校)</p>
<p>1-② インクルーシブ教育の推進</p> <p>・真庭市が目指す「共生社会の実現」に向け、小中学校においてインクルーシブ教育を推進します。</p> <p>指導主事による指導助言、通級指導教員の活用等を通して、すべての児童生徒が学校に来ることを楽しいと感じる「授業づくり」と、児童生徒が自他の個性を尊重し合い、互いに協力して共に伸びていこうとする「集団づくり」を進めます。さらに、専門的な知識を持った機関と連携し、切れ目のない支援体制を構築することで、すべての児童生徒が安心できる居場所と活躍する場がある「魅力的な学校づくり」を支えます。</p>	<p>指標：学校が楽しいと回答する児童生徒の割合</p>
	<p>目標値：小学校90%、中学校85%</p>
	<p>(令和5年度実績値：小学校83.4%、中学校77.1%)</p>

<p>1-② 義務教育課程の学び直しを実施</p> <p>・誰もが学びたいときに安心して学ぶことができる社会づくりの一翼を担うことを目指し、大人を対象に、国語や算数などの義務教育の学び直しの講座を教員OBなどと連携して開催します。また、学ぶ機運を盛り上げるため周知活動を積極的に行います。</p>	<p>指標：社会人の学び直しの講座参加者数</p> <p>目標値:延べ100人/年</p> <p>指標変更 (令和5年度実績値：10回/年)</p>
<p>1-④ 学校施設のトイレ環境の向上（拡充による指標変更）</p> <p>・令和6年度は前年度に引続き、トイレの自動手洗い水栓化、非接触照明化、シャワー洗浄機能付き便座への改修によりさらなる衛生環境の向上を図っていきます。</p> <p>令和6年度中学校4校（北房、落合、久世、蒜山）：2校は実施済</p>	<p>指標：非接触及びシャワー洗浄機能化達成率</p> <p>目標値:100%（小学校：13/20校→20/20校 中学校：2/6校→6/6校）</p> <p>(令和5年度実績値：100% 小学校：20/20校)</p>
<p>2-② キャリア教育の推進</p> <p>・郷育を核としたキャリア教育の更なる推進に向け、情報提供や研修の実施等を通して、児童生徒の地域に対する誇りや愛着を醸成するとともに、地域や社会への貢献意欲をさらに高めていきます。SDGsスタートブックやAR（拡張現実）アプリケーションの活用を進め、地域を学ぶ取組や、地域課題の解決に向けた取組を支援します。</p>	<p>指標:地域や社会をよくするために何をすべきか考えたと回答する児童生徒の割合</p> <p>目標値:小学校85%、中学校75%</p> <p>(令和5年度実績値：小学校80.7%、中学校74%)</p>
<p>2-② 地域の文化遺産を活用できる体制の整備</p> <p>・重要文化財旧遷喬尋常小学校に代表される文化遺産の保護・活用に向けた機運醸成を目指し、教育とまなびやの歴史をたどる講座（座学・見学）を実施することで、市民の関心を喚起します。</p>	<p>指標：講座参加者数</p> <p>目標値:延べ100人/年</p> <p>新規</p>

<p>2-② 子どもたちへの体験活動の実施 【はぐくみ】 ・子どもが自由に自発的に遊ぶことができる遊びの機会をつくとともに、見守ることができる大人を増やし、世代を超えた大人のネットワークを育むことを目指します。</p>	<p>指標：こどもの遊びに関わる大人を対象とした研修会を開催</p> <p>目標値:参加者数100人/年</p> <p>指標変更 (令和5年度実績：モデル的プレーパーク開催年8回)</p>
<p>3-③ 市内高校進学率の向上（教育魅力化推進事業） 【はぐくみ】 高校は、真庭の未来を担う子どもたちのより良い成長はもちろん、活気があり持続可能な地域をつくる上でも大切な役割を果たしています。令和4年度「高校魅力化推進事業」として取組をスタートさせ、令和5年度からは「教育魅力化推進事業」の中に組み込み、義務教育や社会教育と合わせ一貫性を持って取り組んでいます。 令和6年度は以下に取り組めます ・高校応援市民会議：校地毎の応援機運の更なる醸成を図るとともに、スクールポリシー等校地が掲げるビジョン実現のための応援体制の構築を目指します。具体的には「地域とともにある学校」への転換を図る仕組みであるコミュニティスクール化を強く後押しし、合わせてその連携先である地域学校協働本部に準じた、実効性のある応援体制の構築を目指します。 ・受入態勢整備：勝山高校蒜山校地の受入施設について令和7年度開設を目標に引き続き準備を進めます。 ・高校2校の管理職が顔を揃えての市教育委員会との定期的情報交換・意見交換の場を設け、引き続き課題解決策を模索します。</p>	<p>指標：①市内高校進学率、②各校地応援組織の設立、③2高連携事業の実施</p> <p>目標値:①70%、②3校地、③1事業</p> <p>(令和5年度実績値：①49.6%、②1校地、③0事業)</p>
<p>3-④ 学校給食の地産地消の推進 【はぐくみ】 ・学校給食を「郷育」の一環と位置づけ、児童生徒と農業者を繋げ、食材を通じた真庭の豊かさを知る機会を提供します。真庭市の食材のみを使用した「真庭食材の日」、通常の給食に真庭市の特産品を一品加える「真庭特産品プラスワンの日」を実施し、その評価により課題を検証し地産地消の推進に努めます。(5品目＝じゃがいも、玉ねぎ、大根、キャベツ、にんじん) また、学校給食の材料に真庭市産品を使うことで市内での回る経済の仕組みをつくります。そのため、給食における市内産品使用について全量調査を行いながら生産者や納入業者などと安定した価格設定について協議を行い、目標値達成に向けた食材調達確保に努めます。 ・給食材料に真庭市産を使うことと併せて、生産者による講話の機会を通じて児童生徒と地域をつなげながら食育と郷育を進めます。 参考：「真庭食材の日」：3回/年。「真庭市特産品プラスワンの日」：7回/年。</p>	<p>指標：5品目の地産地消率</p> <p>目標値:34%</p> <p>(令和5年度実績値：34.3%)</p>

<p>3-③ 地域と協働する学校づくり</p> <p>・学校運営協議会連絡会や全委員対象の研修会を実施し、先進事例の共有や情報交換を行い、更なる活動推進を図ります。また、学校と地域、保護者、子どもが参加する熟議の開催を推進し、「目指す子ども像」の共通理解を通して、「地域と共にある学校づくり」を進めるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指します。</p>	<p>指標：地域が参画する熟議の機会を設けた学校数</p> <p>目標値:26校（全校）</p> <p>(令和5年度実績値：17校)</p>
<p>3-③ 地域学校協働活動の推進 【はぐくみ】</p> <p>・地域全体で子どもを育み、教育の質向上と地域の活性化を図るため、郷育魅力化コーディネーターを配置し、市内全域の地域学校協働本部の推進員を対象に、専門知識を生かした指導助言や、スキルアップのための研修会を開催します。</p> <p>研修に参加しスキルアップした推進員が、地域と学校のつなぎ役となり、地域の子どもと大人が顔の見える関係をつくることで、「学校を核とした地域づくり」の実現を目指します。</p>	<p>指標：地域学校協働活動推進員を対象とした研修会の開催</p> <p>目標値： 2回以上/年</p> <p>指標変更 (令和5年度実績：地域学校協働活動推進員をつなげる統括的な役割を担う人の設置：1名)</p>
<p>3-③ 真庭中央食育センターを活用した食育の推進</p> <p>・真庭中央食育センターにおける衛生管理・調理工程や地場産物の活用、行事食・郷土料理などを取り入れた取り組みについて、児童生徒や保護者、地域などの幅広い年齢層の方々を対象として、1ヶ月に1回10～20人程度募集し見学会を実施します。なお、学校行事等クラス・少人数の学年単位での見学は随時受け付け、中学生の職場体験・高校生とのコラボ・大学生の臨地実習なども積極的に対応します。また、学校給食では栄養教諭等を2ヶ月に1回程度集めた研修会、夏期休業中を利用し栄養士・調理員の衛生研修・調理講習を行い、真庭のオリジナル共通献立の作成に取り組みます。</p> <p>・健康推進課がR6年度から進める食育推進ボランティアと連携し、子どもの食の権利についての啓発活動や、市民の食育や学校給食への理解度、関心度を計測するためのアンケート実施に取り組みます。</p>	<p>指標：施設見学・研修会参加者</p> <p>目標値:300人</p> <p>(令和5年度実績値：235人)</p>

<p>3-② 真庭市図書館みらい計画の推進</p> <p>「真庭市図書館みらい計画」で示す、「真庭市立図書館は、市民や団体による地域自治の拠点として積極的な役割を果たす」という使命を達成するため、5つの柱（1.公共図書館としての存立基盤の整備、2.子どもの学びへの能動的な貢献、3.地域資源の再評価と新たな価値の創出、4.利用者の知的探究に応えるコンテンツ提供、5.市民が繋がる地域の交流拠点創出）を実行し、市民の「知る自由」や「学ぶ権利」を保障していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「真庭市図書館みらい計画」策定にあたって開催した「図書館そだて会議」を引き続き開催し、市民と図書館が対話を重ね、市民とともに図書館の運営状況を確認し、図書館を育てていきます。 ・公共図書館と学校図書館の蔵書管理システムを連携が完了し、市内全図書館の蔵書の検索が可能となったため、児童生徒が公共図書館の図書を学校で予約・受け取りできるようにする等、読書環境の充実を図ります。 ・市民が蔵書の貸し借りだけでなく、図書館が気軽に集える場所となるよう、工夫をこらした市民参加型のイベントを開催していきます。 	<p>指標：①実貸出利用率 ②「図書館そだて会議」の開催回数</p> <hr/> <p>目標値：①13%②7回以上</p> <hr/> <p>(令和5年度実績値： ①10.7%②8回)</p>
<p>3-④ 学校施設照明LED化</p> <p>本市は、「2050ゼロカーボンシティまにわ」の実現を目指し、管理施設は省エネ機器への更新を推進することとしている。しかし、生産終了した水銀灯を使用している屋内運動場がある。環境負荷の低減、維持管理費の節減、脱炭素のまちづくりを一層加速させ、電気代や維持管理経費の節減を図るためにも屋内運動場照明のLED化を計画的に実施する。</p> <p>(北房小、落合小、天津小、木山小、美川小、河内小、川東小、湯原小、落合中は整備済み ※川上小は改修工事で実施予定)</p> <p>令和4年度から令和8年度までに全校（小学校11校、中学校5校）を整備</p> <p>令和6年度 工事：中学校5校 (北房中、久世中、勝山中、湯原中、蒜山中)</p>	<p>指標：校舎、屋内運動場照明LED化</p> <hr/> <p>目標値：小学校100% (2/20校→20/20校) 中学校100% (1/6校→6/6校)</p> <hr/> <p>(令和5年度実績値：小学校：95% (19/20校)、中学校：実施設計完了)</p>